

## 27年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 1月20日～ 27年2月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
2月分の回答企業数は14社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 45.8	△ 41.7	△ 29.2
	マツ	△ 50.0	△ 45.8	△ 45.8
	広葉樹	△ 39.3	△ 35.7	△ 28.6
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 22.7	△ 31.8	△ 13.6
	マツ	△ 27.3	△ 31.8	△ 22.7
	広葉樹	△ 15.4	△ 15.4	△ 11.5
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 37.5	△ 41.7	△ 33.3
	マツ	△ 54.2	△ 54.2	△ 54.2
	広葉樹	△ 50.0	△ 46.4	△ 46.4

・チップ原木の入荷、消費、在庫は、どの品目も3ヵ月連続して減少。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ	29.2	16.7	16.7
マツ類	16.7	16.7	16.7
広葉樹	14.3	10.7	10.7

・チップ用国産原木価格は、いずれの品目も強保合ないしやや強保合で推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

- ・バイオ燃料へ流れているためか入荷不足、消費はあるが入荷不足で全量出荷できない（東北）。
- ・1月に入り入荷が復活すると思ったが、立木の手当てが順調でないようだ、消費は減少、在庫は減少（東北）。
- ・針葉樹はシステム販売等の終了で入荷の減少が見込まれる、広葉樹は天候に左右され大量の入荷は見込めない、在庫はやや減少（東北）。
- ・2月から降雪が多くなり2月～3月の出材が予想に反し減少、入材が厳しく、入材状況がわからなくなった、バイオマス関係で針葉樹関係がだんだん少なくなって来た（中部）。
- ・原木がFIT関係へ流れチップ材として入荷減、製紙会社はフル稼働で需要は大きい（中部）。
- ・2月に入って雪の影響が予測されるが、仕入れ、生産、在庫に大きな変動はない（中国）
- ・仕入れは、当月、翌月と雪の影響で減少すると思う、消費は変動なし、在庫は仕入れ減で減少か（四国）。
- ・スギ、ヒノキは国有林システム販売用が発電用の分の終了後製紙用の枠の分で入荷、但し製紙用もこれまでより高値、民有林間伐材は予想通り位は入荷。しかし、実際は間伐跡地に林地残材が大分あると聞く。広葉樹は支障木を主に通常位入荷。出荷の要請は多く工場はフル稼働、但し以前の価格のスギ、ヒノキ丸太は今月で底をつく、チップ価格次第では来月から数ヶ月はあえて減産かも。発電用間伐材等は備蓄のため積み増し、使用開始は今年の夏頃から、製紙用スギ、ヒノキはシステム販売材の入荷があるため在庫に減少はなく、下旬頃から増えてくる、広葉樹は変わりなし（九州）。
- ・スギ仕入れは低調、消費は減少傾向で推移（九州）。

(原木価格)

- 材料不足が続き入札で高い材料を仕入れることになる（東北）。
- 少しずつ値上がり傾向となり（東北）。
- 一部で価格の値上がりがあるが全体として材の不足が見られる（中部）。
- 変動なし（中国）
- 変動なし（四国）。
- システム販売の製紙用は契約単価、運賃とも上昇。運賃は現場が山奥化したため、間伐材はすでに高値で推移。広葉樹は上げたいがチップが変わらないので横ばい（九州）。
- 現状で推移（九州）。

## 27年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 40.9	△ 45.5	△ 31.8
	マツ類	△ 40.9	△ 36.4	△ 36.4
	広葉樹	△ 34.6	△ 34.6	△ 26.9
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 35.0	△ 40.0	△ 15.0
	マツ類	△ 35.0	△ 35.0	△ 35.0
	広葉樹	△ 37.5	△ 29.2	△ 25.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 45.0	△ 55.0	△ 45.0
	マツ類	△ 55.0	△ 65.0	△ 65.0
	広葉樹	△ 50.0	△ 45.5	△ 45.5

・木材チップの生産、出荷、在庫は、どの品目も3ヵ月連続して減少。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サロ下渡し)W. D.

品目	26/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ類	4.5	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は、スギ・ヒノキ類のチップ価格が2月のわずかな強保合のほかは、3ヵ月連続して横ばいで推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・材料不足で生産、消費、在庫も減（東北）。
- ・生産は入荷減少で減産、出荷減少変わらず、在庫なし（東北）。
- ・スギは燃料用チップの出荷増が見込まれる（東北）。
- ・針葉樹、広葉樹ともに入荷が悪くチップ生産は減少、需要に対して材の確保が進まず、出荷減となっている、入荷分をすぐにチップに加工し、出荷するため在庫は減少（中部）。
- ・生産、消費、在庫に変動なし（中国）。
- ・燃料用は安定、製紙・ボード用は一般原木不足にて生産減少、出荷は燃料用は安定、製紙・ボード用は減少（原木不足）、FIT用チップは積雪の影響でやや減少、製紙・ボード用チップは生産分がすぐに出荷のため在庫なし（四国）。
- ・全樹種フル稼働、スギ、ヒノキは原木価格が上がったため原木在庫があっても受注に答えられなくなるかもしれない（九州）。
- ・生産は変動なし、鳥インフルエンザの影響で出荷は減少傾向で推移（九州）。

## (木材チップ価格)

- ・変わらず（東北）。
- ・製紙会社は昨年秋に値上げに動いているが、現状では更に値上がるとは考えにくい（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・変動なし（四国）。